



密着
リポート

珠木美南『枯葉の中の青い炎』 感動の大阪初ソロライブ!

**大阪出身の偉大な
作曲家 服部良一氏作の
「シャンソン道頓堀」を
発掘! ライブで披露**

今注目を浴びるシャンソン歌手で大人のポップスを歌う珠木美南が、昨年11月にリリースした『枯葉の中の青い炎』（作詞・高林こうこ、作曲・山田ゆうすけ）の更なるヒットに向け、9月4日から大々的な大阪キャンペーンを展開、9月7日には大阪心斎橋の名門ライブハウス「ART CLUB」で感動の大阪初ソロライブを行った。

このキャンペーンでは、高林こうこ氏と親交の深い大阪在住の作詞家・もず唱平氏が尽力。もず氏は、大阪出身で昭和を代表する作曲家、故・服部良一氏の生誕100周年を記念する歌碑の建立を実現したことで知られ、数多とある服部氏の作品から道頓堀を題材にした『シャンソン道頓堀』（作詞・村雨まささを※服部氏の作詞家としてのペンネーム。作曲・服部良一）という楽曲を発掘。まさにシャンソン歌手、珠木にびびったりの楽曲を話題性と共にライブで歌唱させることを可能にしたのだ。だが、昭和初期の作品と思われることから、楽譜を手に入れることは困難で、こ子息の服部克久

■服部良一氏の「歌碑」を表敬訪問



作詞家・高林こうこ氏、作曲家・山田ゆうすけ氏と共に。



服部氏の直筆楽譜と歌詞が刻まれた歌碑。

■昔、楽器店だった道頓堀の今井を訪ね、服部氏に思いを馳せた



服部氏が通い詰めた「今井楽器店」は、今はうどん店の「今井」に転身。



当時の大阪市長の思いも記され…



日本音楽著作権協会（JASRAC）の会長だった服部氏。作品を大事にするという意志を反映し、歌碑にはJASRACナンバーが刻まれた。

氏の協力のもと、良一氏自筆の楽譜を入手することができた。

ライブ当日は、服部良一氏が通っていた大阪・中央区の小学校の跡地に建立された歌碑を、もず氏、高村氏、山田氏らと訪れ、「今日のライブで、歌わせていただくことをご報告させていただきますました」とと珠木。歌碑には服部氏の代表曲「青い山脈」の直筆楽譜と歌詞が刻まれ、スイッチを押せば歌が流れる仕組みに。

桜が好きだったという氏を偲び、毎年4月の第一日曜には地元住民らが集い歌碑のある桜の木の下で「花見の会」を開くという。

一行はそこから道頓堀に移動し、服部氏が16歳でミュージシャンを目指し、毎日のようにウインドーに飾ってあるサックスを眺めていたという、現在はどういふ店「今井」に転身した「今井楽器店」跡を訪れ、そこでどういふよせ鍋に舌鼓みを打ちながら、当時の服部氏に思いを馳せた。

尽力してくださった先生方に見守られ…

そして、いよいよ19時30分からのライブがスタート。100人以上入る会場は立錐の余地もないほど超満員で、珠木は「枯葉の中の青い炎」始め、

「バラ色の人生」「アプレ・トワ」などを披露し、2部のスタートでは昔のカフェの女給姿に扮し、もず氏、高林氏、山田氏が見守る中、「シャンソン道頓堀」を魂を高揚させ熱唱した。

終演後、会場からは「またぜひ定期的に大阪でライブを開催して欲しい」という声がかかれ、珠木は「来年もまた、来させていただけます」と約束し、大盛況のうちにライブの幕を閉じた。珠木は翌日もCDショップの店頭などで精力的にキャンペーンを行った。



昔のカフェの女給姿で「シャンソン道頓堀」を歌う珠木

■超満員の「ART CLUB」で華やかなライブスタート!



「珠木さんの気取りのない性格がいいんですよ」ともず氏

お蔭さまで「演歌ジャーナル」創刊から30年!感謝の気持ちを込めて…
2013年 月刊ミュージック☆スター大忘年会

年末の風物詩となった本誌主催「大忘年会」が、今年も賑々しく開催されました。ゲストの顔ぶれも例年以上に豪華絢爛。「スターの愛用品お楽しみ大抽選会」も昨年以上に引き続き、さらにパワーアップして行われました。
 そんな楽しいひと時の模様を誌上再現でお届けします!



絶妙な司会の
ナナオ氏

スペシャルゲストの英川壽一さんと編集長
 アタシたちもう40年近いつき合いなのよねえ〜! 輝いているでしょう!



サンケイスポーツ
文化報道部
玉井哲氏



音楽評論家
富澤一誠先生



音楽文化研究家
長田暁二先生



作詞家
水木れいじ先生



作曲家
水森英夫先生



作詞家
たなかゆきを先生

編集長の「涙」で幕開け

本誌主催の「大忘年会」が、今回も東京・新宿区「ハイアットトリージェンシー東京」センチュリールームに帰ってまいりました。師走の慌ただしい時期にもかかわらず、350人以上の方々にお集まりいただき、スタッフ一同、感激もひとしおです。
 12月2日の正午、名物編集長山岸信美のご挨拶から忘年会がスタート。「皆さん、こんにちは〜!」といつも通り明るい編集長の声が会場に響き渡った後、あるエピソードが語られました。
 「先日、夜遅くに編集部で1人残業をしていると、1本の電話がかかってきました。その電話は、北海道の88歳になる読者の方からのものでした。ミュージック☆スターの最新号が雪でまだ届かないということだったので、30年間ずっと本誌を愛読して下さっているということと、高齢になつて足腰が弱り、外出がままならなくなつてしまった今は、「この本が毎月届くのを心待ちにしているの、生きがいなのよ」ってとおっしゃつてくださり。そのお氣持ちがうれしくて、涙が溢れました。
 本を作るということは大変なことですが、こうして待つていて下さる方がいる限り、皆さまに愛される本を作り続けていきたいと思えました。今後共、ご支援のほど、よろしくお願い致します」と語り、涙ぐむ編集長。鬼の目にも涙!? 会場から



350人以上の出席者が集まった*ハイアットリージェンシー東京。センチュリールーム

Guest



北川大介

イケメン演歌歌手として大人気。新鮮なイメージの新曲「君の住む町で」を歌唱



花園直道

エンタテインメント集団*華舞斗、と新曲「じよんからロック」を披露



クリアトーンズオーケストラ
岡宏氏



作曲家
山田ゆうすけ先生



マルベル堂代表取締役社長
三ツ澤博氏



スポーツ報知
細貝武氏



高島易断宗家
高島龍賢氏



株式会社ヒラタオフィス
代表取締役社長
桜井良樹氏



アパホテル(株)
代表取締役社長
元谷美美子氏



ブランド王ロイヤル
代表取締役社長
森田勉氏

ゲストの1番手を飾ったのは、舞踊家として活躍中の花園直道さん。エンタテインメント集団・華舞斗をバックに、三味線を弾きながら新曲「じよんからロック」を華麗に披露！

そして、ここで再び人気連載陣の作曲家・山田ゆうすけ先生、スポーツ報知・演歌・歌謡曲評論の細貝武氏、サンケイスポーツの玉井哲氏、岡宏とクリアトーンズの岡宏氏、音楽評論家の富澤一誠先生、マルベル堂の三ツ澤博社長(株)ヒラタオフィス・桜井良樹社長、ブランド王ロイヤル・森田勉

北川大介、花園直道、スターが続々登場

は大きな拍手が湧き起こりました。感動さめやらぬ中、本誌人気連載陣の作曲家・たなかゆきを先生、作曲家・水森英夫先生、作詞家・水木れいじ先生から、心のこもったご挨拶をいただきました。

続いて、乾杯の音頭は、音楽文化研究家の長田暁一先生。ご存知、長田先生の「今だから書ける流行歌秘話」は、なんと本誌が創刊された当時に連載がスタートし、2014年2月号で278回目を迎えました。30年に及ぶ本誌の歩みを見守ってくださっている長田先生から、「今日は、楽しく飲み、語り、1年を締めくくりましょう。乾杯！」と力強いご発声をいただき、会場のボルテージは徐々に上がり始めました。

宴を盛り上げてくれた実力派歌手の皆さん



ステージドレス「麗」経営
台湾出身の歌姫は『空港』を熱唱
シャオ・リーウェン



女優としても活動中
『トキョートワイルド』を歌う
高島レラ



武藤敬司の公式サポーター
西原啓子率いるチアワン



8月の「全国カラオケ選手権」
優勝者
石川侑樹さん



牧伸二の最後の弟子。
人生の応援歌『幸せじゃん』を歌う
大門三郎



『漁火恋歌』を
フルート演奏と共に
桃太郎



『東京ジルバ』を歌うと
黄色い歓声が！
葉山恭章



バックダンサーの皆さん



84歳。バックダンサーを
従え、『女度胸節』を歌う
萩原良子



歌手としての誇りを胸に
『氷雨棧橋』を歌う
八坂有理



藤圭子の
『女のブルース』をリリース
一条聖矢



元会社経営の大作歌手
新曲『さいはて港宿』を熱唱
平浜ひろし



人気の『栞葉の中の青い炎』
を華麗に披露
珠木美雨



社会風刺ソング
『平成スツカラカン節』を歌う
松山あきら



十八番の
『炎の川』を披露
岩元ひろ子

個性豊かな実力派歌手16組のス
テージが盛りだくさん、ハイハイお楽しみ

**スペシャルゲスト
美川憲一さんのゴージャスな
ショー！**

この後、本誌と馴染みの深い人気アーティスト16組が続々と登場。出席者の皆さんも、素晴らしい歌声を楽しみつつ美味しい料理に舌鼓を打ち、師走の慌ただしさを忘れてこのひと時を楽しまれている様子でした。

そこに、仕事の現場から急いで駆け付けてくれたイケメン演歌歌手の北川大介さんが到着。新曲『君の住む町』を歌った北川さんにひと際高い歓声が上がりました。ここで編集長も登壇し、実は北川さんの事務所と本誌編集部が同じマンションに入っているというエピソードが語られました。出番が終わり会場を後にしようとしていた北川さんの周りには大勢のファンが集まり、その人気振りが窺えました。その後も実力派歌手の皆さんが華やかなステージを次々と繰り広げ、宴を盛り上げてくれました。